



新光悦村に進出第一号の工場が完成

—マルホ発條工業 新光悦工場しゅん工式—



▲マルホ発條工業の新光悦工場

京都府と南丹市が、園部町内林町・瓜生野地区に整備した京都新光悦村で「マルホ発條工業株式会社新光悦工場」のしゅん工記念式典が八月二十三日に行われ、佐々木市長や京都府職員など関係者およそ百人が出席しました。

マルホ発條工業株式会社は京都市下京区に本社がある金属の精密加工会社で、特に極細線加工、精密ばね製造では国内でも屈指の技術力で活躍されています。新工場は鉄筋コンクリート造りの三階建てになっており、述べ床面積は約三九〇〇平方メートルで、精密ばねや薬品の自動包装機の製造



▲句碑の除幕をされる高木名誉会長(右)と奥社長(左)

のほか、医療機器などの製品の開発研究がされています。

しゅん工式に先立ち、新光悦工場玄関前で、高木二郎代表取締役名誉会長の詠まれた俳句が刻まれた句碑の除幕式が行われました。

句碑には、「生み育てん 光悦の芸 新涼の技」とあり、京都新光悦村の由来となった江戸時代の芸術家、本阿弥光悦の独創的な技術を生み出した精神を受け継ぎ、この新たな拠点となる新光悦工場で、社員が自らの意思で進んで新しい技術を開発し、社会に貢献しようとの高木名誉会長の思いが披露されました。

記念式典では、奥康伸代表取締役社長が「京都縦貫自動

車道に近いという交通の便の良さ、里山の美しい自然環境のある良い立地の下で、伝統技術の良いところを残しながら、新しい技術に挑戦していきます」とあいさつされました。

その後、来賓らが新工場を見学し、伝統の組み紐ひもの技術と、最先端の技術が組み合わさったカテーテルの「ステント」(血管などを内側から広げるための医療機器)の製造などが紹介されました。

同工場は、京都新光悦村への進出第一号であり、今後も京都新光悦村では、多くの企業による新しいものづくりが進められていきます。



▲薬品の自動包装機を見学

JR吉富駅周辺地区の土地利用を審議

—南丹市都市計画審議会—

八月二十一日、第二回南丹市都市計画審議会が開催され、十七人の審議会委員が出席されました。

審議会では、八木町吉富駅周辺地区の良好な市街地を形成するため、建築物の適正な規制誘導をする地区計画について審議されました。

この地区は、JR吉富駅や国道九号、京都縦貫自動車道八木西インター等の交通環境に恵まれた地域で、今後土地区画整理事業をはじめ、新たな市街地整備を計画的に進めていきます。



▲新たな市街地整備について審議しました